

第120回 有田国際陶磁展

Arita International Ceramics Competition

記者発表資料



第120回
有田国際陶磁展
120th Arita International Ceramics Competition

美術工芸部・オブジエ部門
Art Objects Division
会場 佐賀県立九州陶磁文化館
The Kyushu Ceramic Museum

産業陶磁器部門
Industrial Ceramic Arts Division
会場 佐賀県陶磁器工業協同組合
Saga Prefecture Ceramic
Manufacturers Cooperative

2024
4/29 MON.
5/6 MON.

主催：佐賀県、有田町、有田商工会議所
Sponsors: Saga Prefecture, Arita Town, Arita Chamber of Commerce
お問い合わせ Inquiries
有田国際陶磁展事務局（有田町商工観光課）
Arita International Ceramics Competition Organizer (Arita Town Hall)
TEL 0955-46-2500

(※文字の一部は)
佐賀県立有田工業高等学校子文化インフォメーションセンター
TEL 0955-46-2500

日時 令和6年4月4日(木)15:30～
場所 佐賀県立九州陶磁文化館

審査員名簿

美術工芸品・オブジェ部門

(50音順・敬称略)

氏名	所属	備考	推薦者
ダイチョウ トモヒロ 大長 智広	京都国立近代美術館 主任研究員	評論家 京都市左京区	今泉今右衛門
ニシモト ナオフミ 西本 直文	日展 会員	日展会員 広島県広島市	馬場九洲夫
モチヅキ シュウ 望月 集	日本工芸会 正会員	日本工芸会 東京都中野区	今泉今右衛門

審査員名簿
産業陶磁器部門

(50音順・敬称略)

氏 名	所 属	備 考
イド マサノブ 井戸 真伸	愛知教育大学教育学部 美術教育講座 教授	東京都生まれ。 2009年よりヘルシンキ芸術デザイン大学客員教授、アラビア・アートデパートメント客員アーティストを務め、両ポストを行き来しながら、「人」「生活」「デザイン」についての関わりと研究を深める。 近年はデザイン、アート、エンジニアリングなど、カテゴライズされた概念に捕らわれない創造的活動を、特にこれらがまじり合った曖昧な箇所注目しながら渡る試みに奮闘している。 国内外にて作品展示、収蔵、受賞多数。 2021年Center of Contemporary Artists(Italy)世界Top10に選出。
オオタニ ヒロハル 大谷 弘治	損害保険ジャパン株式会社	京都府出身。 1988年同志社大学法学部卒業。 同年に安田火災海上保険株式会社(現損保ホールディングス損保ジャパン)に入社。 長年、損害査定や鑑定などを経験。 2021年から、さくらミュージアム財団理事。
マツオ キコ 松尾 綺子	佐賀新聞社 メディア局コンテンツ部記者	佐賀県出身。 東京女子大学進学を機に翻訳の仕事始める。 2022ミス・インターナショナル日本代表選出大会で日本一。 日本代表として出場した世界大会でアジア1位。 現在、通訳やモデルなどとして国内外で活動中。 有田文化交流大使を務める。

ポスターコンクール最優秀賞

佐賀県立有田工業高校 デザイン科 2年 江口 琴菜

「部門別・県別出品数等内訳」

()内は前回分

美術工芸品・オブジェ部門

項目	山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	その他 国内	外国籍	合計
出品者数	2	12	41	7	3	3	1	1	0	28	7	105
	(3)	(10)	(45)	(8)	(3)	(1)	(0)	(2)	(0)	(30)	(0)	(102)
出品点数	2	13	43	7	3	3	1	1	0	29	7	109
	(3)	(12)	(46)	(9)	(3)	(1)	(0)	(2)	(0)	(31)	(0)	(107)
入選点数	1	10	29	5	2	1	0	0	0	17	5	70
	(2)	(10)	(33)	(5)	(1)	(0)	(0)	(2)	(0)	(20)	(0)	(73)
入賞点数	0	1	7	1	0	0	0	0	0	4	2	15
	(0)	(1)	(11)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(3)	(0)	(15)

(※入賞点数は、入選点数の内数です。)

産業陶磁器部門

項目	山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	その他 国内	外国籍	合計
出品者数	2	1	62	5	0	0	0	0	2	2	4	78
	(0)	(0)	(53)	(7)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(4)	(0)	(64)
出品点数	2	1	71	5	0	0	0	0	2	6	4	91
	(0)	(0)	(68)	(8)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(6)	(0)	(82)
入賞点数	0	0	15	2	0	0	0	0	0	1	1	19
	(0)	(0)	(12)	(3)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(4)	(0)	(19)

「過去10年間の出品点数」

美術工芸品・オブジェ部門

	第 111 回	第 112 回	第 113 回	第 114 回	第 115 回	第 116 回	第 117 回	第 118 回	第 119 回	第 120 回
	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R3	R4	R5	R6
出品点数	139	120	128	128	127	109	102	80	107	109
うち佐賀県	70	65	69	59	56	47	45	35	46	43

産業陶磁器部門

	第 111 回	第 112 回	第 113 回	第 114 回	第 115 回	第 116 回	第 117 回	第 118 回	第 119 回	第 120 回
	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R3	R4	R5	R6
出品点数	176	156	111	96	106	103	70	48	82	91
うち佐賀県	110	98	81	67	84	80	64	40	68	71

第120回 有田国際陶磁展 入賞者名簿

『美術工芸品・オブジェ部門』

賞	(フリガナ) 入賞作品名	(フリガナ) 氏名	住 所	年 齢
文部科学大臣賞	マロンフルール24-02 Maron Fleur 24-02	オクガワ マイコ 奥川 真以子	佐賀県西松浦郡有田町	49
2位・佐賀県知事賞	ゲッカビジンインコクハチ 月下美人陰刻鉢	カワサキ セイイチ 川崎 精一	佐賀県西松浦郡有田町	49
3位・有田町長賞	ウェーブ ニマルニヨン WAVE 2024	マルタ タクミ 丸田 巧	福岡県うきは市	68
4位・有田商工会議所会頭賞	ユウゾウガンカキ 釉象嵌花器	ナカオ ジュン 中尾 純	佐賀県西松浦郡有田町	46
佐賀県陶芸協会賞	ハクジカキ 白磁花器	タカイ ヒデキ 高井 秀樹	北海道函館市	66
朝日新聞社賞	セキソウサイセイショウモンバチ 積奏彩青晶文鉢	ワタナベ クニオ 渡辺 国夫	山梨県南都留郡山中湖村	56
熊本放送賞	オルトレ Oltre	レオナルド バルトリーニ Leonardo Bartolini	熊本県熊本市	53
佐賀新聞社賞	ウズシオ 『渦潮』	ウエキ カオル 植木 薫	佐賀県多久市	62
サガテレビ賞	サイシキセンモンカキ 彩色線文花器	オガワ ヨウイチ 小川 洋一	佐賀県佐賀市	58
陶業時報社賞	グラウンド ground	サカイ アンリ 酒井 杏鈴	佐賀県小城市	28
西日本新聞社賞	オウハクジバチ 黄白磁鉢	ナカムラ セイゴ 中村 清吾	佐賀県西松浦郡有田町	48
日本経済新聞社賞	ドウヒョウ 道標	フルカワ テルユキ 古川 照幸	長崎県佐世保市	58
読売新聞社賞	タワムレ たわむれ	イチカワ カヨ 市川 佳依	栃木県宇都宮市	29
伝統的工芸品産業振興協会賞	セキサイセンモンカキ 赤彩線文花器	クニサダ カツヒコ 國定 克彦	京都府船井郡京丹波町	56
陶都有田国際交流協会賞	リンネ 輪廻	セン カイテイ CHAN Kaiting	京都府京都市	34

文部科学大臣賞受賞者プロフィール(美術工芸品・オブジェ部門)

ふりがな 氏名	おくがわ まいこ 奥川 真以子	年齢	49 歳
現住所	佐賀県西松浦郡有田町中樽2丁目9-3		
所属	日本工芸会 正会員 日本陶芸美術協会 会員 有田陶芸協会 会員		
経歴	1975年 有田町生まれ 2000年 佐賀県立有田窯業大学校 卒業 師匠、奥川俊右工門のもとで修業 2005年 九州・山口陶磁展 入選 2007年 九州・山口陶磁展 朝日新聞社賞 西部伝統工芸展 奨励賞 佐賀県展 入選 日本伝統工芸展 入選 2008年 西部伝統工芸展 朝日カルチャーセンター賞 2010年 有田陶芸協会 会員 2012年 日本工芸会 正会員 2013年 陶美展 入選 2016年 現在形の陶芸 萩大賞展Ⅳ 入選 2018年 日本クラフト展 奨励賞 2018年 日本陶芸美術協会 会員 2021年 陶美展 奨励賞 国際陶磁器フェスティバル美濃21 入選 菊池ビエンナーレ 入選 笠間陶芸大賞展 入選 2022年 陶美展 奨励賞 2023年 現在形の陶芸 萩大賞展Ⅵ 優秀賞 田部美術館大賞「茶の湯の造形展」 入選 他 入選多数		

第 120 有田国際陶磁展
美術工芸品・オブジェ部門 審査評

審査長 大長 智広

私たちはみなコロナ禍という困難な数年間を経験しました。ようやく世の中が日常を取り戻し、様々な行事が開催され、生活の中に笑顔があふれるようになってきました。そしてここ有田でも 120 回目を数える有田国際陶芸展が大々的に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

今回の美術工芸品・オブジェ部門には、前回展よりも若干増えて、105 名・109 点の力作をご出品いただいております。また、外国籍の 7 名からも 7 点の作品をご出品いただいたことは、国際陶芸展としての本公募展の性格が少しずつ世間に知られていったことを表わしており、開催にかかわられた皆様の努力に敬意を表します。

本部門の審査には日展会員の西本直文氏、日本工芸会正会員の望月集氏、そして大長の三名が当たりました。第一次審査で審査員が各 30 点の作品を選びました。その集計により 52 点の作品がまず入選となり、その後、例年の入選点数の基準である 70 点をめどに各審査員が追加で 10 点ずつ作品を選びました。その結果、22 点が新しく入選候補に加わりましたが、審査員同士でじっくりと作品を 1 点 1 点検討していったところ、入選のレベルには達していないと思われる作品を選外として、最終的に 70 点が入選することになりました。入選作は審査員のバックグラウンドの多様性がそのまま反映されたようなバラエティ豊かな作品群であり、技術的な完成度、作者の表現における意図や目的、作品としての質などとのバランスが取れた優品ばかりです。もちろん、中にはまだ粗削りな作品も含まれています。これは作者が制作にあたって挑戦した課題に対する将来性を評価して入選としたものとなります。いずれにしても 120 回という記念すべき展覧会にふさわしい作品群だといえるでしょう。

さて、第一席の文部科学大臣賞を受賞された奥川真以子さんの《Maron Fleur 24-02》は三組の作品です。他の受賞作に比べて小品ではありますが、丁寧な轆轤仕事、器形内外の掛け分けによる色彩の対比、そして何よりも轆轤後に変形させることで三点が集合したときに生まれる、凜とした流れるようなリズムが、本展それ自体を今後、次のレベルへと誘ってくれる、まさに 120 回という記念展にふさわしいさわやかな印象を与える優品だといえます。

第二席の佐賀県知事賞を受賞された川崎精一さんの《月下美人陰刻鉢》は伸びやかな轆轤成形による鉢に陰刻による花模様が施された作品です。陰刻によって、青白磁の釉薬に濃淡が付き、深い淡い水色と模様部分の白さ、その間の階調とが一体となった瑞々しさを見るものを感じさせてくれると同時に、釉薬の透明感が水面に花が咲き誇る様を情感豊かに表しています。

有田町長賞を受賞した丸田巧さんの《WAVE 2024》はアメリカの地層浸食の風景を形象化した作品です。轆轤で成形したものを立てることで生まれる輪郭線と吹き付けによる色調の変化が雄大で神秘的な大地のイメージを喚起させてくれます。

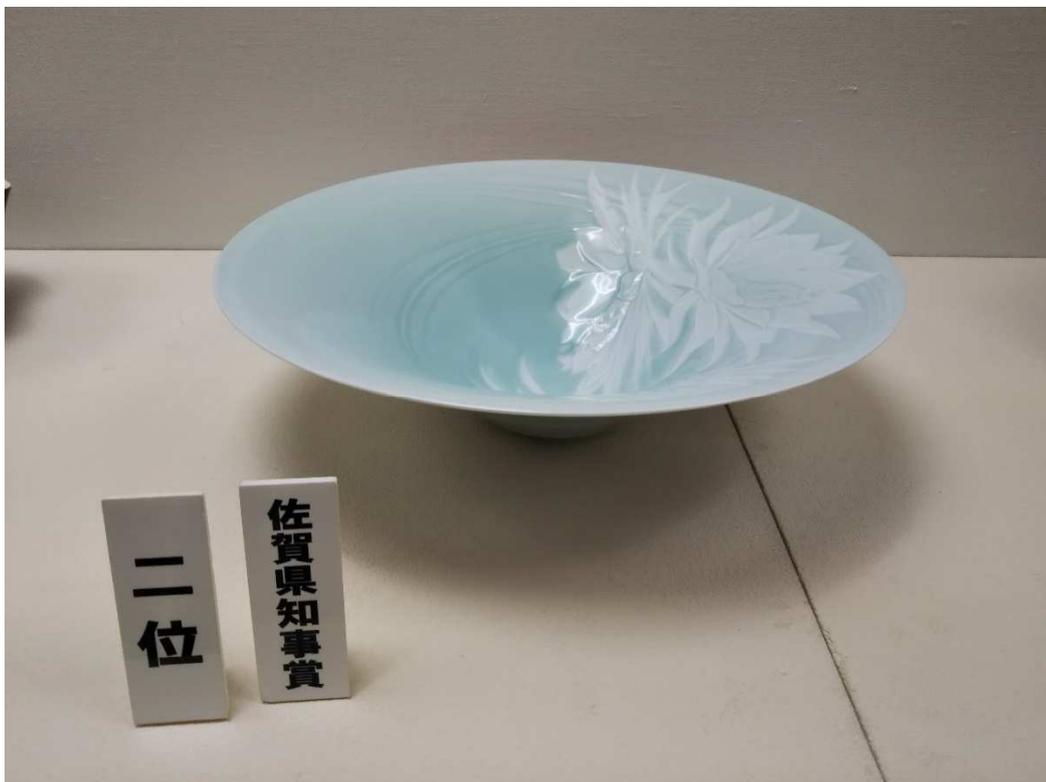
そして有田商工会議所会頭賞を受賞した中尾純さんの《釉象嵌花器》は轆轤で成形後に器形外面にかすかに膨らみが連なるように段をつけた作品で、マット調の釉薬に対して、光沢がある釉薬を放射状に象嵌することで、静かな中にどこまでも透き通った感じを与えてくれる、磁器ならではの作品だといえます。

ここには記していませんが、受賞した 15 点はいずれも有田国際陶芸展の名にふさわしい作品ばかりです。時に審査員同士で意見を戦わせながら受賞、入選作を選んでいったことから、今回の審査は長時間にわたるものとなりましたが、これらの作品群を前に、陶磁器の持つ豊かな歴史や文化、さらには現代に生きる作家たちの新鮮な想像力を来館者の方に感じていただくことで、この公募展がさらに発展していくことを願っています。

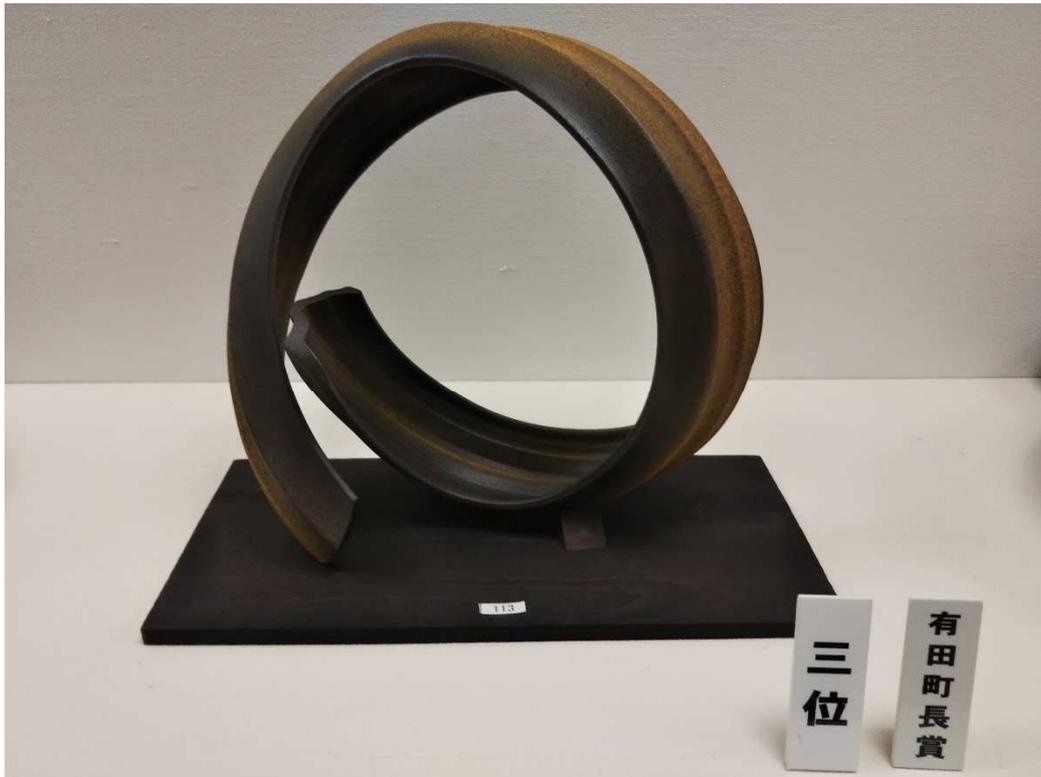
第120回 有田国際陶磁展 『美術工芸品・オブジェ部門』上位入賞作品
文部科学大臣賞



二位 佐賀県知事賞



三位 有田町長賞



四位 有田商工会議所会頭賞



佐賀県陶芸協会賞



産業陶磁器部門
入賞者名簿

賞	フリガナ 入賞作品名	フリガナ 氏名	住 所	年 齢
経済産業大臣賞	モノポーセリン mono-P	カブシキガイシャコウラン シャ フカガワユウジ (株)香蘭社 深川 祐次	佐賀県西松浦郡有田町	66
2位・佐賀県知事賞	タナゴコロ 掌	モチヅキ マキ 望月 真希	長崎県東彼杵郡波佐見町	41
3位・有田町長賞	セイジトウコウカップ 青磁透光カップ	オオシュウガマ オオグ シ ヒデノリ 大秀窯 大串 秀則	佐賀県伊万里市	64
4位・有田商工会 議所会頭賞	アリタイルリンニューヨーク ARITILE 麟 Lin NY	キンショウドウ カネコ シンジ 金照堂 金子 真次	佐賀県西松浦郡有田町	63
技能賞	サイジネリアゲキカガクモヨウボ ウル 彩磁練上幾何学模様ボウル	クサバ ナミコ 草場 奈美子	佐賀県西松浦郡有田町	67
朝日新聞社賞	ラバテラスウィートディスポジ ションー Lavatera-Sweet Disposition-	カナダ ヒロミ 金田 紘弥	佐賀県西松浦郡有田町	34
熊本放送賞	クロマット フチキンスミエ コイマリショウ チクバイ19cmキキョウブチボウル 黒マット洩金墨絵古伊万里松竹 梅 19cm桔梗洩ボウル	フクダ ユウスケ(フク ジュガマ) 福田 雄介(福珠窯)	佐賀県西松浦郡有田町	42
佐賀新聞社賞	セイハクジバチ 『青白磁鉢』	ウエキ カオル 植木 薫	佐賀県多久市	62
サガテレビ賞	クミトウバコ 組陶管	イマムラ ケンイチ 今村 堅一	佐賀県西松浦郡有田町	57
陶業時報社賞	ソラモヨウプレートロクシュ 空模様プレート6種	カカオポタリー cacaopottery	佐賀県西松浦郡有田町	43
西日本新聞社賞	ニシヨクサビ 『ハクバイ』 二色錆『白梅』	ハラダ ヨシヤス 原田 吉泰	佐賀県西松浦郡有田町	42
日本経済新聞社 賞	アオノハナ 青の花	キシダ リョウ 岸田 怜	長野県長野市	39
読売新聞社賞	セイウン 星雲	カブシキガイシャ タセイ ガマ タナカ リョウタ (株)田清窯 田中 亮太	佐賀県西松浦郡有田町	57
伝統的工芸品産 業振興協会賞	ナベシマコウダイツキプレート 鍋島高台付プレート	イマリナベシマヤキカマモト5 ポッター オオシュウガマ セイ ザンガマトクヒチガマ フクオカ ダイゴガマ ランザンガマ 伊万里鍋島焼窯元5 potters【大秀窯・青山 窯・徳七窯・福岡大五窯・ 巒山窯】	佐賀県伊万里市	
有田焼卸地協 同組合賞	シュクマイ 祝舞	フルカワ テルユキ 古川 照幸	長崎県佐世保市	58
佐賀県陶磁器工 業協同組合賞	キューールデザインサクラヅクシ シュキセット キューールデザイン桜尽し酒器 セット	ハタイシ シンジ 畑石 眞嗣	佐賀県伊万里市	68
佐賀県陶磁器商 業協同組合賞	シズクセンチャワン 霽煎茶碗	ニシ タカユキ 西 隆行	佐賀県西松浦郡有田町	39
肥前陶磁器商工 協同組合賞	シカヅガイハナイレ 鹿頭蓋花入	ミヤザキ ユウタ 宮崎 雄太	佐賀県西松浦郡有田町	42
陶都有田国際交 流協会賞	カキ スネイク アンダー ザ フ ラワーズ 花器”snake under the FLOWERS”	トレバー・ジェームズ・ フォスター Trevor James Foster	佐賀県西松浦郡有田町	34

経済産業大臣賞受賞者プロフィール(産業陶磁器部門)

ふりがな 氏名	ふかがわ ゆうじ 深川祐次	年齢	66 歳
現住所	佐賀県西松浦郡有田町大野乙1925-3		
勤務先	(株)香蘭社		
勤務先住所	佐賀県西松浦郡有田町幸平1-3-8		
経歴	1879年(明治12年)八代深川栄左衛門が香蘭合名会社設立 1970年(昭和45年)香蘭合名会社を株式会社香蘭社に組織変更 2013年(平成25年)深川祐次が株式会社香蘭社社長に就任 現在に至る		

第120回 有田国際陶磁展
産業陶磁器部門 審査評

審査長 井戸真伸

第120回という記念すべき本展に微力ながら携わらせていただけたことに、まずは感謝申し上げます。さまざまな社会情勢により休止を余儀なくされたことがありながらも、120年を越え、長きに渡って開催されてきたことの背景には、陶磁器産地としての誇りや使命のもと、ひとえに「やきもの」に関わってこられてきた多くの人々の努力の賜物だと思います。これだけの回を重ねてきたコンペティションは他に類を見ないですし、「継続」という力は時代がどれだけ変化しても不変ですから、150回200回と続いていくことを祈願しています。

さて、本展での賞の決定にあたって、3人の審査員のそれぞれの視点で、まずは投票からスタートさせました。その中から経済産業大臣賞に選ばれた「mono-P(モノポーセリン)」は、当初は必ずしも最多票を得ていた作品ではありませんでしたが、議論を重ねていく中で、再度作品を深く観察してみると、多くの発見に改めて感心し、最終的に選ばれたものです。例えば陶磁器は焼きやすい向き、即ち変形しにくい向きで焼成を行うのが常ですが、本作は施釉の状態から察するに、細かい方を下に向けて焼成をしていると思われ、また、インナー側にスリットを設けて透光性を上げるため、型や成型方法に工夫がなされていると分かります。一見気づかない多くの工夫が、「神は細部に宿る」ことを創り上げていると感じ、最高賞にふさわしいと意見が一致いたしました。また、製作した香蘭社さんの「らしさ」も、技術、デザイン共に光っていたと思います。陶磁器による照明器具は数多くありますが、新たなあかりのかたちをつくってくれるプロダクトとして、世界に発信して行かれることを期待しています。

経済産業大臣賞を競ったもう一点の作品が「掌(タナゴコロ)」と題されたいっちゃん技法による湯飲みサイズのカップです。精緻と称するに相応しい微細なデザインが視覚的にも触覚的にも心地よく、手に取って撫でて愛でたくなる作品です。蕎麦猪口にしたり、湯飲みにしたり、アイテムを限定させずにユーザーの自由な視点で使えるようなサイズと形状も良かったと思います。本作品を佐賀県知事賞とさせていただき、以下、全19の賞を限られた時間一杯を使って議論を重ね、決定させていただきました。

最後にわたくし事で恐縮ですが、有田を訪れたのは実に20数年ぶりです。その間、時代は変化し、いまやあらゆることにAIやデジタル技術が使われ、人々の関心の多くもモノからコトへと変遷してきました。そういった時代変化の中にあっても20数年ぶりに訪れた有田は、普遍的な良さをきちんと理解し、守ってきたことを強く感じます。これからもその伝統を絶やすことなく、変化し続ける社会において、産地の使命とは何なのか、陶磁器とは何なのか、常に問い続けながらこれからも発展されていくことを願っています。

第120回 有田国際陶磁展 『産業陶磁器部門』上位入賞作品

経済産業大臣賞



二位 佐賀県知事賞



三位 有田町長賞



四位 有田商工会議所会頭賞



技能賞



●表彰式

日時 2024年4月28日(日) 13時30分～

場所 佐賀県立九州陶磁文化館(佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙3100-1)

表彰式招待予定者

美術工芸品・オブジェ部門(1位、2位、3位、4位、佐賀県陶芸協会賞の受賞者)

産業陶磁器部門(1位、2位、3位、4位、技能賞の受賞者)

ポスターコンクール最優秀賞の受賞者

※その他の受賞者の方は、賞状、副賞を郵送いたします。

●作品の展示

会期 2024年4月29日(月)～5月6日(月)

場所 美術工芸品・オブジェ部門

佐賀県立九州陶磁文化館(佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙3100-1)

内容:美術工芸品・オブジェ部門の入選・入賞作品、招待作品の展示

産業陶磁器部門の1位～4位受賞作品と同じ作品の展示

産業陶磁器部門

佐賀県陶磁器工業協同組合(佐賀県西松浦郡有田町外尾町丙1217)

内容:産業陶磁器部門の全作品、招待作品の展示